大正５年５月５日木藤精一郎創立

やまゆき会会報

令和元年１１月号

例　会　報　告

比良山系：武奈ヶ岳北尾根縦走　上級C

9月1日（日）　曇　担当:山田昭則　参加者 10 名

雨に濡れることを覚悟して登ることとし、曇り空を見上げながら京阪本線出町柳駅から京都バスに乗換え、約 1 時間で坊村バス停到着。参加者の確認とストレッチをして、御殿山まで 2 時間の急登をゆっくりペースで登っていった。杉檜の林の中を風もなく蒸し暑いがひたすら上を目指して歩を進めた。御殿山に上がり西南稜の向こうに武奈ヶ岳を眺めながら水分補給をして休憩である。西南稜を登りながら振り返ると蓬莱山が望めた。予定した時間に武奈ケ岳山頂(標高 1,214.2m)に登り着き、琵琶湖はガスの中で遠望はなかったが、集合写真を撮ってから昼食の時間とした。

ここから北尾根の縦走であるが、あまり登山者が入っていないので、登山道が周囲の草木に覆われているからスパッツを付けて細川越まで下っていると、小雨がぱらつきだしたが雨具を着るほどではなかった。釣瓶(ツルヘ゛)岳への登り返しも結構きつかったが頑張って登っていった。1,098m の釣瓶岳を過ぎると緩やかに下っていく尾根歩きであるが、周囲の山並みはガスの中で遠望がなくひたすら歩くだけである。イクワタ峠は広い小高いピークで朽木栃生への分岐である。ここから東へ行って、そのまま道なりに行ってしまい林の中で踏跡も不鮮明になってきた。地図、GPS で位置確認すると金山谷東斜面の尾根である。引き返して間違った地点まで戻り、北方向へのルートを地図で確認のうえ、なだらかな道を笹峠を目指し、到着して確認すると 30 分ほどロスをしていた。尾根筋最後の地蔵山に向かい小高い山頂で休憩。バスの発車時刻までそれほど余裕がない。歩き出してすぐの地蔵峠からの下りは、ジグザグの急下降で近年まったく整備されておらず荒れたままの登山道で、大きな木が倒れたままであった。集落が見えてくると車道に下り、棚田には実った稲穂が見渡せて、のどかな山間の集落であった。畑バス停に下山し、解散とした。ガスったままのロングコースの尾根歩きであったが、雨に会わなかったのは良かった。

ルートを間違えたのは、地図をよく確認しなかったからで、ガスがかかって方向が分かりづらい時は特にルート確認を怠らないことを再認識した。

コースタイム

出町柳駅＝坊村バス停(8:57)～御殿山(11:17-11:34)～武奈ヶ岳(12:17-12:49)～細川越(13:12)～釣瓶岳(13:39-13:48)～イクワタ峠(14:10-14:22)～笹峠(15:25)～地蔵山(15:44-15:51)～車道出合(16:21)～畑バス停(16:50)

湖南：三上山（近江富士）　初級Ｃ

9 月 1 日(日) 晴　担当:広瀬美紀子　参加者 7 名

今回の三上山は、前回 JR の人身事故のためコース変更をして実施した山で、新たに計画致しました。

前回は 1 月、今回は猛暑の中での山行で、全行程歩けたのも行きにバスを利用したため 0.3 ㎞短くなり全行程回れました。里山の暑さでも何とかプラスの山歩きが出来ました。若い 2 人は、楽しんでました。年配の私達は猛暑でバテましたが、次回は三上山の全貌のコース田中山から縦走のコースを考えたく思います。

コースタイム

JR 琵琶湖線野洲駅・滋賀交通バス停(9:00)＝御上神社バス亭・御上神社探索(9:30)～登山口(9:40)～割岩(10:15)～三上山展望台(10:42)～三上山・432m(10:48)～近江富士花緑公園・昼食(11:45-12:30)～古代峠(13:00)～妙光寺山、磨崖仏(15:00)～妙光寺登山口(15:30)～野洲駅(16:15)

京都西山：　沓掛山(⌕ 414.7m)　初級Ｂ

9 月 8 日(日) 晴れ　担当:原田佳忠　参加者 26 名

阪急嵐山線上桂駅に集合。駅前の線路脇に移動し点呼後にコース説明などのミーティングを行い出発した。住宅街を西へ進み、衣笠墓地に到着し最初の休憩とする。左に嵐山を開発した秦一族の墓があり、ここが唐櫃越の出発点だ。しばらく進むと丁塚の分岐があり、復路の下山ルートとする旨説明する。緩やかな勾配の尾根道を進んでいると、熱中症気味の方が出たので、「やまゆき会の携行用・救急用品」等で手当する。皆さんが戻って来るのを待つという当人のケアをHさんにお願いし先に進む。ベンチの有る展望台の場所にて休憩。西山連峰や

京都市内が眺められた。昨年来の台風の後で倒木が多数あるが歩行には支障がなかった。

やがて桂坂野鳥遊園との標識のある場所に出くわすが、数年前より変化していて、観察小屋などは見られなかった。道は複雑に幾つものルートがある様だ。約 30 分で沓掛山に到着し昼食とする。見晴らしは良くないが北西には愛宕山が見えた。記念撮影後に往路を下って行くと、すぐに待機中の二人と合流した。展望台の有る分岐で休憩とし、本日の学習テーマのリーダシップ、メンバーシップについて配布した資料にて説明する。比叡山や東山連峰、京都市内の展望を楽しんだあと、左の旧道を慎重に下り、登りの際に説明した丁塚の分岐に到着する。これより北東に下ると述べて進むが朽ちた木橋が 4 本あり、3 人づつ渡るようにと伝える。沢を 2 本超え、まもなく西芳寺川に到着し、藤堂節子さん差し入れの饅頭を頂きながら川辺でひと時を過ごす。

ここで本日の外気温 36 度と湿度も相当高く、暑さで疲労と判断。例会予告の京都トレイル松尾尾根を松尾大社へのルートに変更する提案をし、松尾谷林道を歩く。左に西芳寺(苔寺)、竹の寺、鈴虫寺、月読神社(参拝の人もあり)を経て、全員が松尾大社に揃った所で解散した。

京都特有の、蒸し暑い中での山行であつたが、皆さんのご協力で無事終える事が出来た。

コースタイム

阪急上桂駅(9:06)～衣笠墓地(9:48-9:53)～丁塚(10:19)～展望台(10:41)～沓掛山(11:35-12:05)～展望台(12:50-12:59)～丁塚(13:32-13:36)～西芳寺川(13:53-14:06)～松尾大社(14:40)解散

京都東山：清水山（242.2m）　初級B

9 月 15 日(日)　晴　担当:松川元信　参加者 22 名

京阪本線伏見稲荷駅前に集合する。天気予報は、晴れで気温が 35℃と残暑が厳しい。準備体操、コース案内に加えて、事前学習として「熱中症」対応を行いました。

駅前を出てすぐに伏見稲荷大社につき参拝する。早朝より海外からの旅行者が多く混雑していました。千本鳥居を抜けると奥宮に着く。ここから急坂の石段を登り四辻に着くと北に折れ歩きやすい道を進む。泉涌寺の大門の手前で休息をとる。剣神社を東に大きく曲がり住宅地を進む。

京都トレイルの標識を確認しながら歩く。山道に入り阿弥陀ヶ峰との分岐で休む。京都トレイルのコースから離れて阿弥陀ヶ峰に向かう。

山頂で昼食を取り、巨大な五輪塔を背に集合写真を撮りました。阿弥陀ヶ峰の分岐に戻り北方向に下る。国道一号線の地下道を潜り、清水山の登山口に向かう。山頂に到着して三角点を背景に集合写真を撮りました。更に北方向に下り登り返すと東山山頂公園に着き、東屋で休息をとりました。展望台からは、京都の市街地や京都西山の山並みや愛宕山が眺められました。公園の傍にある将軍塚大日堂の外側を進み、分岐で京都トレイルのコースと別れて円山公園に下りました。知恩院の境内に入り大鐘楼を眺めながら、丸山公園内を進み八坂神社の広場で解散しました。

コースタイム

伏見稲荷駅(9:00-9:15)～伏見稲荷大社(9:24-9:35)～四辻(10:10-10:15)～泉涌寺(10:35-10:40)～剣神社(10:53)～阿弥陀ヶ峰分岐(11:25-11:30)～阿弥陀ヶ峰(11:45-12:20)～阿弥陀ヶ峰分岐(12:33)～国道一号線地下道(12:45-12:50)～清水山登山口(12:55)～清水山(13:22-13:30)～東山山頂公園(13:50-14:15)～円山公園～八坂神社(14:45)

京都北山：　鞍馬～大原　　初級C

9 月 22 日(日)　担当:諸橋勝彦

雨天のため中止しました。

北摂：　東大岩岳　　中級C

9月25日(水)　晴れ　担当:石田幸弘　参加者9名

・バス停横の延命寺の広場でミーティングと軽く体操。今日歩く尾根が西に見える。
川下川沿いに上流に歩き、北の宝塚西谷の森公園を眺めながら南への登山口に入った。
笹をかき分けて入ると、丸太を埋め込んだ階段の遊歩道を登って行く。
一汗掻いたら最初の三角点に着いた。
あまり展望は良くないが、木の間越しに民家が見える。

・踏み跡の薄い尾根道を南に下って峠に着き、西の境野大池に向かう。池尻の弁財天に寄り、林道に出ると南に円錐の丸山が見えた。林道脇にはたわわに実った栗が口を開けている。
丸山の横からだらだらとした尾根で東

大岩岳に着いた。西の眼前に大岩岳、その先に三田の町が小さく見える。北の小山へは馬の背の岩場があり、有志にはチャレンジしてもらった。

・東大岩岳から南に急な坂を下り、大岩岳の分岐から丸山の裾へ引き返して丸山湿原へ。
丁度昼になったので昼食、この湿地帯には昔サギソウが沢山咲いていたが、今は少なくなった。7 月下旬～8 月下旬あたりに咲くようだが、立入り禁止柵の中を双眼鏡で探し観察するという。

・昼食後湿地帯の周遊路から南西に向かい、M さんの指摘で⌕ 丸山を道の北側に見つけた。
＃180鉄塔から送電線下の関電巡視路を歩く。＃181鉄塔からは北に振って⌕ 大岩を目指す。小さい沢を越えて西の尾根から南へ、尾根の南端に⌕ 大岩はあった。そのまま南下すると帰路には近いが羽束川の横断が難しいので引き返す。西にショートカットの谷を下る。
千苅ダムは堰堤からの放水中で夏季にはめずらしい涼しげな光景だった。

9 月に入り気温は少し下がったが、暑い一日だった。所々で難路もあり、皆さんお疲れ様でした。

コースタイム

JR武田尾駅・田園バス(08:55)＝延命寺バス停(09:05～9:15)～登山口(09:40)～⌕ 306.0m（点名・境野）(9:55-10:00)～弁財天・境野大池(10:20-10:25)～丸山北登山口(10:40)～東大岩岳、365m(11:10-11:30)～丸山湿原北端(12:05-12:35)～⌕ 281.4m（点名・丸山）(12:53-12:55)～⌕ 269.6m（点名・大岩）(14:00-14:10)～千苅ダム(14:50-14:55)～浄水場トイレ(15:05-15:10)～JR道場駅・解散(15:40)

神戸市西区：櫨谷城（満福寺）～櫨谷城址巡り　初級 B

9 月 29 日（日）晴　担当：浜崎邦男　参加者 3 名

今回は雨で中止と発表しましたが当日天候が急変して晴に変わりましたので、現地待ち合わせ場所に出向くと 2 名の方が待っておられました。10 時 15 分まで待ちましたがその後参加者は現れませんでしたので、3 名で決行しました。

今日のコースを簡単に説明して出発、最初は舗装道路で団地の中の散歩コースを歩き秋葉神社に到着(この神社は火災、火よけの神社と言われている)。休息後、此処より舗装道路と別れハイキングらしく土の道を炎天下の中歩く。櫨谷川沿いにヒガンバナが咲き誇る田んぼ道を進むが、満福寺の手前で下見した時と同様、今回も間違ったのか入る道を見失い、近くの農家の人に聞

くとすぐ上を指さして教えていただき、横の道を 100m 行くとお寺の入り口に出た。階段を上がる途中で丁度 12 時を知らせる梵鐘が鳴り響きました。この鐘が有る満福寺(櫨谷城三の丸跡地)は、日頃は無人ですが朝と昼と夕方 3 回自動で鐘を突く装置が取り付けられており、ハイテクのお寺として近所では有名です。

昼食休憩後裏山を登り、櫨谷城址(端谷城・衣笠城ともいわれる)の物見台、本丸、二の丸、堀切、土塁などを巡った後、元来た道を戻り、福谷東交差点を左折して、櫨谷神社[推古 11 年(603 年)、櫨谷庄内氏神として歓請として伝えられる神社]へ参拝。休息後、宝福寺[(文永年中衣笠法眼為菩薩寺建立)とあり、櫨谷城主・衣笠氏の菩提寺]へ参拝。その後、櫨谷川に架かる北田橋～山鳥橋～極楽橋を過ぎ西神中央公園の中にある神戸市埋蔵文化センターにて見学を兼ねて休息を取り今日の山行を終了しました、この後地下鉄西神山手線西神中央駅で解散しました。

この度は当日の天候不良を考え早々中止のお知らせを出したため多くの方にご迷惑をお掛けして申し訳ありませんでした。埋め合わせのため来年 4 月頃、改めて当該例会を再開します。その節は宜しくご参加お願いします。

コースタイム

西神中央駅(10:15)～秋葉神社(10:55-11:10)～満福寺(12:00-12:30)～櫨谷城址(12:35-12:50)～櫨谷神社(13:40-13:50)～宝福寺(14:05-14:10)～西神中央公園(15:00)～神戸市埋蔵文化センター(15:10-15:40)～西神中央駅(15:45)解散

飛騨山脈： 立山三山縦走　中級 C、上級 C

担当:CL 髙木順子、SL 松川元信　参加者 12 名

古来、山岳信仰の立山は、富士山・白山と並び日本三霊山とされている。主峰を雄山(3003m)とし、最高峰の大汝山(3015m)、富士ノ折立(2999m)の 3 つの峰を総して立山本峰と呼ばれている。立山信仰によると浄土山は「過去」、雄山は「現在」、別山は「未来」となるらしい。

9 月 29 日(日)　霧のち雨

JR 特急サンダーバード 1 号に大阪、高槻、京都駅から各々乗車。金沢駅にて北陸新幹線はくたかに乗換えて富山駅に。ここで本日の昼食・明日の行動食を調達し、電鉄富山・ケーブル・高原バスを乗り継ぎ 12 時 20 分室堂ターミナルに到着。

12 時 30 分、室堂ターミナル広場の記念碑前にて本日の行程と注意事項を説明し、各自で昼食・ストレッチ・名水玉殿の湧

水をボトルに給水後、13 時半にすぐ出発できるように指示し一時解散する。

13 時 30 分、室堂から登山開始。10 分程観光客と共に石畳の遊歩道を歩く。両側には紅葉したチングルマがあちこちに見られ秋の訪れを感じさせてくれる。まわりは霧で山容は見えない。まもなく日本最古の山小屋・室堂山荘を左手にして右に曲がり坂道を上る。直進すれば 1 時間足らずで一の越山荘に着くが私達は浄土山を目指す。次第に急な階段となり展望台への道の分岐で左折し、ここから岩がゴロつく急斜面を雨雲がくるのを気にしながら登る。ようやく登り切った軍事慰霊碑のある北峰で雨となる。双耳峰の浄土山南峰に向かう途中で雷鳥に出会う。雷鳥は早朝か夕刻、又は天候の悪い時に見られる確率が高いのだが、この雨のおかげで運よく雷鳥に！霧の登山道を先導してくれて後を追って歩き、仲間のいるところまで案内してくれた。この日 3 羽確認でき、1 羽は滑空して飛び降りるのも見られた。

16 時 25 分、一の越山荘に到着。板張りの清潔な小屋でお湯は無料。水洗トイレで快適な小屋。乾燥室にレインウエア、ザック、靴などを入れて部屋に入る。宿泊客が少ないため、女性は個室 3 部屋を使わせていただいた。夕食前にストーブ近くで皆集まり熱いコーンスープで体の芯からも暖をとった。夕食後もミーティングと称して珈琲やらアルコール等を手に皆で楽しい談話となった。消灯 21 時。

コースタイム

室堂ターミナル広場(13:30)～浄土山北峰(15:00)～浄土山南峰(15:30)～一の越山荘(16:25)

9 月 30 日（月） 快晴

6 時朝食。7 時前集合。本日のコース概要の説明。3000 メートル高山の歩き方、深く息をすって酸素をたくさん取り込み、景色を楽しみながらゆっくり慎重に岩場の安全歩行を心掛けることとし、7 時出発。

いきなり急な岩場登りとなる。三合目で景色を眺め写真タイム。八ヶ岳、槍ヶ岳、穂高の山々。遠くに富士山もはっきりみえる。南には昨日歩いた浄土山。西には富山湾をバックに大日岳や室堂平、雷鳥平。行く先の北には立山主峰の左に剱岳が顔をのぞかせ私達を待っている。

雄山ではゆっくり時間を取ることにし、立山頂上雄山神社に全員登拝し、安全登山祈願の御祈祷とお祓いを受けるなど、雄山頂上で 45 分休憩してから歩きづらい稜線の岩場を足元を注意して大汝山へ。そこではザックをおろして皆で最高峰に岩のぼり。標高 3015mの大きな岩に 12 名がしがみついて記念写真。その後、富士ノ折立へ。

ここでは希望者のみ登頂。他の人は行動食タイムで景色を堪能。眼下には黒部湖、ダムもよくみえる。その後は、急なガレ場を一気に下りなだらかな真砂岳を目指す。尾根の東側は、2018年氷河に認定された内蔵助雪渓がみえる。真砂岳で 20 分の時間をとり行動食、写真タイムをとる。

真砂岳の稜線を下り、鞍部からまたガレ場の本日最後の岩場を登って、立山三山の一峰・別山山頂の祠に着く。展望も素晴らしく、振り返ると今歩いてきた縦走路が青空の下に一直線に伸びている。さらに別山北峰に進むと迫力満点の剱岳の勇姿が大接近となり、皆思い思いのポーズで写真を撮り感激も一入。その後、宿泊の剱御前小舎へと向かう。剱御前小舎チェックイン後、ザックを小舎に置いてサブザックを肩に剱御前山へ。ハプニングもあったが、松川サブリーダーと共に健脚 5 人はさらに剱御前へと進む。霧の中に消えたが、まもなくピストンで元気に戻ってくる。17 時夕食。皆少々疲れ気味ではあったが、食前・食後のミーティングでは飲み物を手にしていろいろな話題へと。20 時消灯。

コースタイム

一の越山荘(7:00)～三合目(7:45-7:55)～雄山・雄山神社(8:20-9:05)～大汝山(9:30-10:00)～富士ノ折立(10:05-10:35)～真砂岳(11:30-11:50)～別山南峰・北峰(12:50-13:25)～剱御前小舎(13:55-14:10)～剱御前山(14:25-14:40)～剱御前小舎(15:25)

飛騨山脈：剱御前（2776.8m）　上級C　　担当:松川元信　参加者 5 名

立山三山縦走を終え、剱御前小舎でザックを預けてしばしの休息をとる。サブザックを肩に 11 名で小舎の前から聳える尾根を登る。最初のピークの剱御前山（2792m）に着き一息を入れる。ここから 5 名で目的地の剱御前を目指す。短い岩場を下り、ハイマツやナナカマドの低木帯の尾根道を進む。眼下には剱沢のテント場や剱澤小屋が見える。間近に迫る剱岳を正面に眺めながら進むと剱御前に着いた。今回の山行で 2 つ目の三角点（三等）に到達して集合写真を撮る。残念ながら東大谷から吹き上げる流れの早い雲に剱岳が覆われる。現れては消える岩峰に感無量の瞬間を味わうことが出来ました。戻りは来たルートを折り返して剣御前山に来ると、山頂に髙木リーダーが帰りを待っていました。剱御前小舎迄共に下りました。

コースタイム

剱御前小舎(14:10)～剱御前山(14:25-14:30)～剱御前(14:45-14:50)～剱御前山(15:10-15:15)～剱御前小舎(15:23)

10 月 1 日(火) 快晴

6 時朝食。7 時半集合。本日の行程と概要を説明し、下りばかりなので足元を注意し安全にゆっくり歩くこと、写真は声をかけて立ち止まって撮ることなど。奥大日岳方向に出発する。初夏の頃はお花畑の尾根道をまず新室堂乗越まで歩く。名残？季節外れ？のツガザクラを何度もみかける。新室堂乗越からも白山の全貌をみることができた。昔話に「立山と白山の背比べ」がある。機会あれば一読を。雷鳥沢に下る途中から見える山肌は、ナナカマドの赤、ミネカエデの黄、ハイマツの緑で例年より紅葉が遅れていたので私達にはチャンスであった。幾度となくみとれて立ち止まってしまう。沢沿いの木道をしばらく歩くと浄土沢の橋につく。ここで時間調整のため清流横で休憩する。ここからまた階段を一気に上って地獄谷横のらいちょう温泉・雷鳥荘へ。ここで 3 日間歩きの汗を流し疲れをいやした後、それぞれ簡単な昼食をとる。この雷鳥荘前からは、この 3 日間歩いたすべての山々や縦走路が見渡せる。感慨深く眺め、背景に入れた今回最後の集合写真を撮影し、室堂ターミナルへと向かう。

今回の 1 週間前の天気予報では、悪天候、しかも風速 12～13m/s の強風で中止の可能性もありましたが、近づくにつれ予報が良い方に変わり、本番縦走当日は全くの風無し、快晴！この時期の低体温症・高山病・強風での事故等に心配しましたが、皆装備も充分してきてくださり、天候も好条件で、全員無事に立山三山縦走を一緒に踏破できたことを嬉しく思います。皆さんご協力ありがとうございました。立山万歳！

コースタイム

剱御前小舎(7:40)～新室堂乗越(8:50-905)～雷鳥沢(9:40-10:00)～雷鳥荘(10:45-12:40)～ミクリガ池(12:55-13:00)～室堂ターミナル(13:10)